

平成30年度和歌山県文化功労賞

酒井 政利

住 所 東京都杉並区
出身地 和歌山県有田市
生 年 昭和10年

◎ 業績及び経歴

昭和10年有田郡保田村(現有田市)に生まれる。昭和33年に立教大学卒業後、映画制作を志し松竹に入社するもまもなく退社し、その後、日本コロムビア、CBS・ソニー(現:株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント)の音楽プロデューサーとして、南沙織、郷ひろみ、山口百恵等の強力な布陣でアイドル全盛時代を創り上げ、また、矢沢永吉、ジュディ・オング等によるマス・メディア戦略を展開、レコード業界の黄金期の礎を築いた。

活動分野は音楽にとどまらず、映画や舞台、TVドラマの企画・制作などにも及ぶ。

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント取締役エグゼクティブプロデューサーを経て、平成8年、(株)酒井プロデュースオフィスを設立。活躍の場は更に広がり、芸術・文化・メディアのトータルプロデュースを手がける一方で、テレビコメンテーター、各種音楽賞の審査員、さらには、ソニー時代にカウンセラー養成所に通った経験を活かし、カウンセリング業務を行うなど、マルチな才能を発揮している。

今日まで半世紀以上のプロデュース活動により、世に送り出したアーティストは350人余り、売り上げ累計は約5,500億円にのぼると言われ、芸能界では「伝説のプロデューサー」として、その名を知らない者はいない。

平成17年12月には、これらの功績が認められ、音楽業界初の文化庁長官表彰を授与された。

精力的な活動の一方で、平成18年以降南紀おやじバンドコンテストで審査員長を務めるほか、町制60周年を記念した上富田町のイメージソング「ただいま故郷」「鳳凰の町」の制作も行うなど、故郷和歌山に対する貢献も多大である。

氏の日本を代表する音楽プロデューサーとして、さらにそれにとどまらない幅広い活躍は、日本の音楽文化の向上と発展に大きく寄与し、功績は誠に多大である。

■現在

- 音楽プロデューサー
- メディアプロデューサー
- 株式会社酒井プロデュースオフィス代表取締役社長
- 日本ストリートダンス協会非常勤理事
- 日本レコード大賞 審査副委員長
- 日本作詩大賞 審査委員長

◆主な表彰歴等

- 昭和39年 第6回日本レコード大賞
「愛と死をみつめて」
(歌唱:青山和子)
- 昭和54年 第21回日本レコード大賞
「魅せられて」
(歌唱:ジュディ・オング)
- 平成17年 文化庁長官表彰